

本誌では58号(2006年)より4回にわたり、滋賀県放射線技師会におけるJICA草の根技術協力事業でのベトナムへの放射線防護技術支援についてご紹介いただいております。今回は常務理事 松尾悟先生による第5報をご紹介します。

## 滋賀県放射線技師会における JICA「草の根技術協力事業」第5報

### — JICA 草の根事業フェーズⅡ いよいよ始動！ —

公益社団法人 滋賀県放射線技師会 常務理事  
松尾 悟



松尾 悟 先生

#### 1. 南部ベトナムへの想い

滋賀県放射線技師会はJICA (Japan International Cooperation Agency) の草の根事業を受託し、2005年から2008年までの3年間にわたり南部ベトナムのホーチミン市にあるチョーライ病院をターゲットとした放射線防護に関する教育を行いました。チョーライ病院をターゲットにした理由は、この病院が日本のODA (Official Development Assistance) で建設されていることや、病院の開設当時に当技師会の会員が深く関わっていたからです。また、チョーライ病院は南部ベトナムのナショナルセンター的な役割を果たしており、広い地域から多くの医療スタッフの研修生を受け入れています。そこで、この病院の診療放射線技師を教育することが、この地域で働いている診療放射線技師の放射線防護に関する知識をレベルアップさせるのに一番の早道であると考えたからです。

3年間の事業期間の中で、ベトナムより診療放射線技師10名、放射線科医師1名を受け入れ、放射線計測の実習を中心に指導を行いました。また、計8回の訪越事業を行い、放射線計測の実習や教育講演の開催により、私たちが当初考えていたチョーライ病院の診療放射線技師への教育目的が達成できました。

2008年、事業終了の報告をするためJICAベトナム事務所(ハノイ)を訪れた際に、今回の南部ベトナムで行った事業をそのままハノイで行ってはどうかという話が持ち上がりました。この提案にのれば

JICA事業を受託するための大変な事務的作業を行うことなく次の活動に進めたかもしれません。しかし、私たちはそのまま進むことより、一度立ち止まることを選択しました。2006年にハノイを訪れたとき、島津ベトナムの小副川氏からベトナムの医療事情に関する沢山の情報を聞かせて頂きました。話の中で、多くの国からのODAやNGO(Non-Governmental Organization)の支援事業がベトナムで行われているが、その殆どが首都ハノイを中心とした北部ベトナムに偏っており、南部ベトナムへの支援は僅かであるということを知りました。そこで、私たちはJICA草の根事業フェーズⅡを行うなら南部ベトナムで行いたいという素直な気持ちをJICAベトナム事務所(ハノイ)の方々に伝えました。そして、私たちは、フェーズⅠの反省、フェーズⅡでやるべきことを考えるために2年間のエネルギー充電期間を設けることにしました。

#### 2. 厳しかったフェーズⅡ受託への道のり<sup>1)</sup>

私たちの中では、フェーズⅡで行うべきことは既に固まっていました。それは、フェーズⅠでチョーライ病院の診療放射線技師に行った放射線防護の教育を南部ベトナム全域に広めることです。これは、それほど難しい問題ではないと考えています。なぜなら、フェーズⅡの主役はチョーライ病院の診療放射線技師であり、彼らが南部ベトナム全域に放射線防護の重要性を伝える伝道者となるようにしっかり

とした後方支援を行うことが私たちの役目であると  
 考えているからです。また、ベトナムは思った以上  
 にインターネット環境が進んでおり、インターネット  
 を利用したe-ラーニングシステムを構築すること  
 で南部ベトナムに限らずベトナム全域の診療放射  
 線技師のレベルアップに寄与すると考え、これらを  
 フェーズIIの事業目的としました。

次に、私たちがフェーズIIとして受託したJICA  
 草の根パートナー型支援事業の内容を簡単に述べ  
 ておきます。事業期間は最長5年、事業資金は最高  
 5000万円ですが受託団体の事業規模により異なり  
 ます。当技師会の一年間の事業予算は約400万円  
 であり、この年間事業予算がJICAから受託できる年  
 間の資金となります。そのため、当技師会が行う  
 フェーズIIの事業費は単年度400万円、5年で最高  
 2000万円の事業規模となります。

事業計画書には、ホーチミン市を中心とした南部  
 ベトナムの主要都市に出向き教育講演を行い、さら  
 に、e-ラーニングを行うためのサーバを立ち上げる  
 等の内容を記載しました。すると、JICAより厳し  
 いチェックの電話が入ってきました。JICAスタッ  
 フより「e-ラーニングを行うためのサーバはどこに  
 立ち上げるのですか？」「ベトナムでも良いし、日  
 本でも良いと考えています。」「誰がサーバの管理  
 をされるのですか？」「管理は業者をお願いし  
 ようと思っています。」「その資金はどこから支払  
 われるのですか？」「JICAからの事業費でと考  
 えています。」「そんなお金ありませんよ。」「えー  
 事業費を使ったら駄目なんですか？」「事業終了  
 後は、そのサーバの管理費はどうされるのですか？」  
 “事業終了後ですかー えっと・・・。”とのや  
 り取りが。民主党政権下の事業仕分けでJICAが叩  
 かれていた光景が私の頭の片隅を過ぎた瞬間で  
 した。しかし、これらの諸問題は私たちが思案し  
 ているあいだに時間が勝手に解決をしてくれまし  
 た。それは、Googleが無料サービスとして提供し  
 ているサーバ機能を利用し、関連施設との間でGoogle  
 Appsによるe-ラーニングシステムを構築すること  
 で事業終了後も費用を要せずに支援が継続でき  
 るというものです。これで、ベトナムにて行う事  
 業の根幹が出来上がりました (Fig.1, Fig.2)。

次は、JICA事業受託のための事務的事項です。  
 私たちにとっては2回目の申請でありスムーズに進  
 むものと楽観していました。しかし、JICAとの事

業締結には約2年の時間を要しました。その理由は  
 法令改正でした。この2年の間に、当技師会は社  
 団法人から公益法人へと移行を行っていたために、  
 社団法人の際に提出していた書類を全て公益法人と  
 して再提出しなければならなかったことや、登記簿の  
 書き換え等に必要以上の時間を要しました。そして、  
 申請から2年の歳月を要し、ようやく2012年8月に  
 ベトナム政府との間で事業締結に至りました。

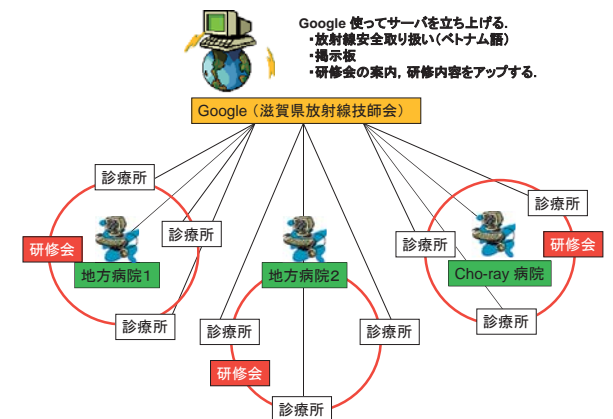


Fig.1 Google Apps を用いた放射線被ばくに関する教育用システム  
 の構築

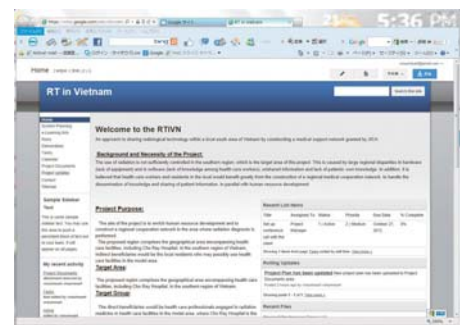


Fig.2 Google Apps を利用したホームページ

### 3. いざ、フェーズII！ そして第1回 訪越事業へ

2012年11月4日、  
 松井会長、門前プロ  
 ジェクトマネージャ、  
 平田理事、私そして  
 JICA調整員の川崎氏  
 の5名が関西国際空  
 港よりハノイ入り  
 をしました (Fig.3)。



Fig.3 ベトナム地図、今回訪問  
 した、ハノイ、ホーチ  
 ミン、ロンセン、ミ  
 トー



## 滞在2日目：JICAベトナム事務所（ハノイ）およびPACCOM表敬訪問

早朝より、JICAベトナム事務所（ハノイ）を訪問し事業を開始することを伝えました。その後、久しぶりに島津ベトナムの小副川氏と昼食を共にし、ベトナムにおける医療事情を聞かせて頂きました（Fig.4, Fig.5）。

昼食を終え、私たちはPACCOM (People's Aid Coordinating Committee) に向かいました。ベトナムは社会主義国であり、勝手にベトナムに来て事



**Fig.4** JICA ベトナム事務所（ハノイ）  
前列左より、川崎女史（JICA 関西市民調整員）、Chu Xuan Hoa (Senior Program Officer), Trin Thuc Thanh Thuy (PR&Partnership Program)  
後列左より、高内氏（JICA Japan desk Coordinator）、門前 PM（プロジェクトマネージャ）、松井会長、著者、平田理事（国際交流担当）



**Fig.5** JICA ベトナム事務所（ハノイ）ビル前  
前列左より、門前 PM、小副川氏（島津ベトナム）、松井会長、平田理事  
後列左より、著者、川崎女史。



**Fig.6** PACCOMにて仮ライセンスを発行して頂く（ハノイ）  
左手前より、Nguyen Ngoc Hung (Co-Director), Nguyen Thi Nhung (Asia Pacific Desk), 西原晶子（専門員）  
右手前より、著者そして松井会長

業を展開することはできません。PACCOMは、滋賀県放射線技師会がベトナム政府から認められたNPO法人であるというライセンスを発行してくれる団体です。このライセンスはベトナムにおいて事業展開するための必須アイテムです。この時、私たちはまだPACCOMからのライセンス発行待ち状態でしたが、今回の訪越事業から事業を開始したいと申し入れたところ、仮ライセンスを発行してくれることになりました。労力を惜しまず足を運ぶことの大切さを改めて実感しました（Fig.6）。

## 滞在3日目：在ホーチミンJICA南部連絡所表敬訪問

早朝よりハノイからホーチミン（飛行機で約2時間）に移動し、事業開始の報告をするために在ホーチミンJICA南部連絡所を訪れました（Fig.7）。これから5年間、私たちが事業を行うのにあたり色々後方支援をして頂くことになる重要な場所です。事務所の前には、フェーズⅡより現地調整員兼通訳を引き受けてくれたHoa女史が待っていてくれました。Hoa女史は日本語がとても上手なので現地の調整は彼女に任せておけば一安心です。在ホーチミンJICA南部連絡所の石田所長から、南部ベトナムで事業を展開する上で、私たちの事業に協力的な地域とその主要施設を幾つか紹介して頂きました。この日の夜には、Hoa女史が日本では食べることでできないヤギの肉を食べに連れて行ってくれました。血圧が高めの私には少し危険が伴う夕食となりました。



**Fig.7** 在ホーチミン JICA 南部連絡所にて  
左より、石田所長、川崎女史、Hoa 女史、川辺委員、松井会長、著者、門前 PM。

## 滞在4日目：在ホーチミン日本総領事館を表敬訪問、チョーライ病院において実務者会議

朝から在ホーチミンJICA南部連絡所の石田所長らと合流し、在ホーチミン日本総領事館を表敬訪問しました。2005年に訪れたときには、これが日本の総領事館かというくらい古い建物でしたが、現在

は移転し立派な建物に変貌していたのが印象的でした。日田総領事に事業の内容を伝え、これから南部ベトナムにおいてチョーライ病院を中心に5年間の事業展開していくことを伝えました。その際、日田総領事から東日本大震災の際に、チョーライ病院の病院長や多くのスタッフから義援金を頂いたとの話を聞き感謝の意が込み上げてきました (Fig.8)。

総領事館の表敬訪問を終えた後、やっと事業パートナーであるチョーライ病院へと向かいました。カウンターパートナーであるチョーライ病院では、私たちがフェーズ I の事業を行っていたころの病院幹部陣は全て入れ替わっており、新しい病院幹部陣との間で、はじめから交渉をしていかなけれ



Fig.8 在ホーチミン日本総領事館にて  
左より、著者、門前PM、松井会長、日田春光総領事、乾展之領事、川崎女史。



Fig.9 チョーライ病院におけるスタッフミーティング  
左側は滋賀県放射線技師会理事、右側はチョーライ病院幹部。



Fig.10 Welcome Party (ホーチミン)  
滋賀県放射線技師会理事7名とチョーライ病院スタッフ

ばいけない状況でした。私たちは、今回の事業内容を詳しく説明し協力を依頼した結果、病院幹部陣より快い回答を得ることができました (Fig.9)。これで、何とかベトナムで事業を展開するための土台が作れたという心境でした。この日の午後には、後発組の小川監事、吉村副会長、鰐部理事の3名が合流する予定になっており、夜に行われたチョーライ病院主催の歓迎会にてやっと7人が揃いました (Fig.10)。

### 滞在5日目：アンザン省ロンスエン市の保健局および市民病院の視察

早朝より、在ホーチミンJICA南部連絡所の石田所長から紹介頂いた施設のひとつであるアンザン省のロンスエン市にある保健局と市民病院の視察に向かいました。ロンスエンはホーチミンより西方に車で約6時間の場所に位置しています。南部ベトナムの象徴であるメコン川を横切り到着したロンスエンの風景は、想像していたのとは全く異なり区画整理された美しい町でした。現在、アンザン省には19の病院があり、視察に訪れたロンスエン総合病院は病床数1000床の省内最大の病院です。放射線設備としては、4検出器型CTが1台と透視装置そして単純撮影はデジタル化されていました。保健局の副局長そしてロンスエン総合病院の副院長との会談の席で、南部ベトナムで展開する今回の事業を説明し協力を御願したところ、ここでも快諾して頂きました (Fig.11)。



Fig.11 アンザン省保健局にて  
後列右側より2人目が小川幹事、5人目が Trinh Huu Tho 副局長、左より二人目が吉村副会長、前列右側は鰐部理事。

### 滞在6日目：ティエンザン省ミトー総合病院視察そして帰国

早朝よりアンザン省を後にしてティエンザン省のミトー総合病院に向かいました。ティエンザン省は

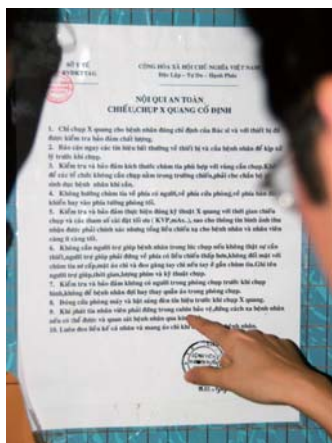


アンザン省とホーチミンの中間に位置しています。ミトー総合病院はフェーズIの際にも視察に訪れた病院でした。ミトー総合病院は病床数1000床以上の大病院で、放射線部門にはCTが1台と単純撮影用の装置が数台設置されていました。この病院の画像診断部長は被ばくに関する知識が高く、積極的に超音波診断を行っていたのが印象的でした。今回は、ほぼ5年ぶりの訪問でしたが、放射線部門には0.35TのMRIと16検出器CTが導入され、単純撮影はデジタル化されていました。当時の画像診断部長とも再会し、さらに新しく導入された超音波診断装置数台を見せて頂きました。今でも超音波が第一診断であり、それで分からない場合にCTやMRIの検査を追加するとのことでした。この病院を訪れるたびに、何でもかんでもCT検査をする日本の病院と比較をしてしまい、私たちの事業が本当に必要なのはベトナムではなく日本ではないのかと考えさせられてしまうのでした (Fig.12)。

最後に、先日訪れたロンズエン総合病院そしてミトー総合病院のX線撮影室操作側の扉には、保健局から発行された放射線防護に関する注意事項が貼られていました (Fig.13)。この保健局からの通達は、



**Fig.12** ティエンザン省のミトー総合病院訪問  
左側はミトー総合病院の幹部、右側は滋賀県放射線技師会理事。



**Fig.13** 放射線防護に関する注意事項

私たちのフェーズIの活動の結果、放射線防護の重要性が認められて掲示されるようになったとの話もあり、嬉しく思うと共に活動の重要性を改めて認識した第1回訪越事業でした。

## 4. 第1回受け入れ事業

2013年2月17日(日)～23日(土)の期間、第1回目の受け入れ事業としてチョーライ病院より研修事業部の Nguyen Ngoc Bich 先生と放射線部長の Le Van Phuoc 先生を招待しました。Bich, Phuoc 両先生を最初に招いた理由には、今回、ベトナムに対して行う事業である“インターネットを利用したeラーニングシステムの構築”に関する内容を把握して頂くことで私たちがベトナムで行う事業をスムーズに展開できるようにすること、事業内容に適した研修生を派遣してもらうこと、そして、Bich 先生と Phuoc 先生とのコミュニケーションをさらに良くするという狙いがありました。Bich 先生は今回で4回目(過去3回はいずれも東京)、Phuoc 先生は3回目(過去2回は東京)の訪日でしたが、関西方面には初めてのこともあり滞在期間中はいつも二人で行動され、両者のコミュニケーションに関する目的は十分に達成できたと思われまます。

滞在中は、主に滋賀医科大学附属病院と京都大学医学部附属病院の視察をして頂きました。滋賀医科大学では、来日した研修生が主に学ぶマルチメディアセンターを訪問し、同センターの重歳先生より研修内容を伝えて頂きました。また、滋賀医科大学には、私たちの事業以外にもチョーライ病院から一般外科医4名そして看護師1名が留学されていることもあり、彼らを交えた歓迎会を開催したところ Bich 先生、Phuoc 先生ともに大変喜んで頂きました。

滞在最終日となる22日(金)には、滋賀県放射線技師会国際交流委員会のメンバーが集まり、南草津駅南口にある居酒屋にて送別会を行いました。二人とも日本料理を満喫され、また、日本酒や焼酎を美味しく飲まれていました (Fig.14)。

帰国当日には、両先生から“今回、日本に招待して頂き大変感謝しています。どうか滋賀県放射線技師会との交流が末永く続きますように。”との話があり、朝10時30分初のベトナムエアラインにて帰国の途に着かれました。



Fig.14 送別会にて  
左より Phuoc 先生, 著者, Bich 先生

## 5. 最後に

JICA草の根事業フェーズⅡは、昨年の8月にベトナム政府と事業締結し動き始めたばかりです。また、フェーズⅡは滋賀県放射線技師会だけでは達成できません。そのため多くの関係団体に御協力を御願いしなければなりません。特に今回の受け入れに対して、事業内容を御理解して頂き、快く御協力をして下さいました滋賀医科大学マルチメディアセンター長の堀池喜八郎教授そして重歳憲治先生にお礼申し上げます。

末筆になりましたが、このような執筆の機会を与えて頂いた島津製作所に感謝申し上げます。

---

### 引用文献

- 1) 今井方丈, 滋賀県放射線技師会における JICA「草の根技術協力事業」第4報 - フェーズⅠからの展開 -, MEDICAL NOW, No.66, p.48-p.53, 2009年